

<b>活動名</b>	<b>団体名</b>	NPO法人ほしはら山のがっこう
10周年記念！ぼくたちのキャンプファイヤー場をつくる 100人の夏CAMP(1泊2日)&10周年記念誌づくり	<b>地域</b>	広島県三次市
	<b>代表者</b>	理事長 檜谷 義彦
	<b>支援金額</b>	35万円
<b>活動概要</b>		
<p>★『10周年記念CAMP(1泊2日)』を実施。これまでに参加した子どもたちや保護者・スタッフ・地元住民総勢100人で、キャンプの2日間を通して「キャンプファイヤー場」の整地や階段、看板づくりを行う。できた広場は、今後10年間の活動で生かす。</p> <p>★『ほしはら山のがっこうの子どもたち～10周年記念誌』の発刊。活動写真に合わせてこれまで10年間関わってきた小中学生や大学生スタッフが、キャンプや自然体験でなにを学び、それがどのように日々の暮らしや活動に生かされているかの調査をふくめた記念誌を作ることによって、成長のふりかえりや今後の活動に生かす。</p> <p>◆実施時期 2013年7月1日～2014年3月31日 ほしはら山のがっこう</p> <p>◆参加人数 キャンプ参加者51名(泊34名 日帰り17名/延べ85名) キャンプスタッフ17名(泊11名 日帰り4名/延べ26名) 10周年記念誌(編集部2名 寄稿17名/延べ19名)</p> <p style="text-align: right;">参加総人員:130名</p>		



10周年記念誌



森の入り口に看板をつくろう！！



キャンプファイヤー場をみんなでつくったよ



人っていいね、自然っていいね。ここは、わたしたちの心のふるさと！みんなで手をつないで歌を歌って、10周年をお祝いしました！！

#### ◆実施に伴う効果

##### 【10周年記念キャンプ】

私たちの暮らしから、自然や人との関わり体験が薄れていっている時代の中で、特に子どもたちの教育の場において、自然と共に生きていく力(実体験・感性・感受性・体力・火や道具を使い暮らしを創り出す技術や創意工夫する力など)を養う機会に恵まれていない。これからの時代を担う子どもたちにとって豊かな自然体験は必須である。ふるさと自然体験塾では、「自然と共に暮らす地域・ふるさと」を活動地とし、これまで地域の方々や講師を招いて、それらを学べる機会づくりに努めてきた。この度、10周年を迎えるにあたり、「自分たちの手で創った！自分の行動が役に立つ！」という実感と達成感をもてる機会をキャンプファイヤー場づくりや看板づくりで設けることができた。キャンプファイヤー場は、2010年より荒れた笹林や蔓を刈り取ったことにより出現した広場で、それまで森の遊び場などで利用していたが、根や石などで足元が悪い状態だった。この広場でキャンプファイヤーが行えるようになればとの夢が、今回、皆の力を合わせることによってかない、10年目の記念とすることができた。また、参加者は楽しいキャンプ生活を通して、仲間と同じ時を分かち合い、友情を確かめ合う時間を過ごすことによって、信頼や人の温もりなどを得ることができた。

##### 【10周年記念誌づくり】

10年の歩みをふりかえると共に、主に子どもを対象とした自然体験に携わってきた団体として、これからの自然体験について考えたいという想いがあった。そこで、「子どもと自然体験」について17名の自然体験関係者の方々にご寄稿いただいた。どの寄稿文も興味深く、それぞれの指導者の人柄や自然や子どもたちに対する想いが詰まっていて読み応えがあるものであり、10周年という機会にひとつの冊子の中に掲載させていただけることに深く感謝している。また、地元の方々からこれまでにいただいていたメッセージを一覧できるコーナーを最後に設けた。山里で暮らす人々の言葉はひとつひとつ意味深く、学びにつながる。今という時代の中での自然体験や自然と人との関わりの意味や可能性、必要性について考える機会を、この記念誌を通して多くの方につないでいきたい。

#### ◆苦勞した点

- ・10周年記念誌を制作するにあたり、どのような企画にすれば、豊かな自然体験を子どもたちにつないでいきたいという想いを「みんなの声」によって語る事ができる冊子になるかという点で苦勞した。結果、アンケート回答、寄稿文、上田町に暮らす人々のメッセージなどを合わせると、70名余りの方に関わっていただき、完成させることができた。
- ・アンケート送付の際、住所不明で届かなかった封書が三十通余りあり、転居先が分からず残念であった。

#### ◆今後の課題・発展の方向性

- ・今回の事業では、記念誌完成までであったので、今後、どのようにこの記念誌を手渡していくかが課題として残っている。
- ・この度出来たキャンプファイヤー場や看板の維持管理が課題である。
- ・ほしはらの森でキャンプファイヤーが出来るようになり、森で過ごす魅力が増えたことにより、ますます自然体験が豊かになることが期待できる。
- ・「自然と人をつなげ、豊かな自然・ふるさとを未来の子どもたちにつなぎたい」という想いをつなぐアイテムとして、冊子(10周年記念誌)を手渡せるようになった。

#### ◆活動を終えての感想・意見等

10周年キャンプ前に数度ボランティアスタッフが集まり、笹藪だった場所の整地や階段づくりなどを行っていました。そして、10周年キャンプの日、ようやく、みんなの汗の結晶の、手づくりキャンプファイヤー場が完成しました。夜、参加者が入場する道を、ボランティアスタッフがランタンを持って照らしてくれていました。そして、森のキャンプファイヤー場で、大人も子どもも火を囲んで、心あったかい時間を過ごしました。ああ、10年の火が燃えているなあと、感動しました。これからの10年間も、人と人、人と自然をつなぎながら、この火のように心をあたたかく照らせるような場でありつづけたいと想いを新たにさせていただきました。記念行事を応援くださり、ありがとうございました。